
メインイベント

9月12日（木）

「被災事例から考究するレジリエントな学び」

13:20～15:20

（大会企画パネル討論）

被災事例から考究するレジリエントな学び （パネル討論）

本大会のテーマである“レジリエントな学び”は、

- 世の中の変革や乗り越えるべき困難に対応できる“しなやかな（柔軟な／強靱な）”人材の育成
- 世の中の変革や乗り越えるべき困難に直面しながらも、学び続けられることを意味しています。本大会の目的のひとつは、レジリエントな学びのあり方や支援について、個々人の経験から得られた教訓の共有・活用を可能にする教育システム・情報技術の観点から議論していくことです。

本パネル討論では、誰もが遭遇しうる自然災害、その中でも、いつどこで発生するか分からない地震災害に争点を当て、その被災事例を見ながら、自然災害に対する備えや困難の克服に教育システム情報学がどのように貢献できるかを考えていきます。

前半は、2018年9月（昨年度の大会期間中）に発生した北海道胆振東部地震、2016年4月に発生した熊本地震、2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震を取り上げ、現場で奮闘された3名の大学研究者に被災状況や対応等についてご講演いただきます。続いて、5Gに代表される情報通信技術を活用したレジリエントな学びの事例や展望を企業研究者にご講演いただきます。講演中には、コメント収集ツール（sli.do）を用いて会場からのコメントや質問を受け付けます。

後半は、収集したコメントや質問をもとに、講演者とレジリエントな学びのあり方や支援について、議論していきます。

コメント収集ツール sli.do

<https://www.sli.do/>

登壇者（敬称略）

■ 金子 大輔（北星学園大学経済学部 教授）

2018年のJSiSE全国大会は、台風21号および北海道胆振東部地震という二つの災害に見舞われた大会でした。この災害に伴う本学の被災状況や、現地大会実行委員会の対応のほか、その後本学で実施した学内情報サービスの災害対策等について講演いたします。

■ 中野 裕司（熊本大学総合情報統括センター 教授）

熊本地震の被災・復興状況と、前震直後に開発、運用を開始した安否確認システムとそこに寄せられた生々しい被災状況報告等を振り返り、安否確認システムの必要性やその後の訓練等について講演いたします。

■ 三石 大（東北大学教育情報基盤センター 准教授）

教育用情報システムや復旧や学生の安否確認等、東日本大震災発生時の対応のほか、日常的な防災教育の必要性・有用性について講演いたします。

■ 水野 浩伸（NTTドコモ東北復興新生支援室 主査）

東日本大震災で今なお立ち入り禁止となっている「ふるさと」を体験してもらい、5G技術を活用した小学生対象の「バーチャル遠足」等、最新の情報通信技術の活用事例や展望について講演いたします。

メイン企画担当

■ 司会：光原 弘幸（徳島大学）

会場運営：田中孝治（金沢工業大学）、山本頼弥（山陽小野田市立山口東京理科大学）